

第三者評価結果シート（児童養護施設）

種別	児童養護施設
----	--------

①第三者評価機関名

特定非営利活動法人エール・フォーユー

②評価調査者研修修了番号

S15007

SK15017

S16005

③施設名等

名称：	双葉荘
施設長氏名：	荒井 聡
定員：	50名
所在地(都道府県)：	山形県
所在地(市町村以下)：	新庄市大字萩野字横根山80 - 1
T E L：	0233-25-2018
U R L：	

【施設の概要】

開設年月日	1952/4/10
経営法人・設置主体（法人名等）：	社会福祉法人 最上柗檀会
職員数 常勤職員：	27名
職員数 非常勤職員：	3名
専門職員の名称（ア）	社会福祉士
上記専門職員の人数：	1名
専門職員の名称（イ）	児童指導員
上記専門職員の人数：	4名
専門職員の名称（ウ）	保育士
上記専門職員の人数：	12名
専門職員の名称（エ）	栄養士
上記専門職員の人数：	1名
専門職員の名称（オ）	調理員
上記専門職員の人数：	4名
専門職員の名称（カ）	カウンセラー
上記専門職員の人数：	2名
施設設備の概要（ア）居室数：	ユニット 11名×4室、6名×1室
施設設備の概要（イ）設備等：	
施設設備の概要（ウ）：	
施設設備の概要（エ）：	

④理念・基本方針

【理念】

児童福祉法と児童憲章を守り、よい環境の中で正しい愛情をもって養護にあたり、子ども一人ひとりの違いを大切にしながら豊かな人間性の涵養と自立のための支援を行います。

【基本方針】

1. 児童の権利擁護
2. 職員の資質向上
3. 施設の高機能化、小規模化
4. 施設の社会化

⑤施設の特徴的な取組

1. 地域の要保護児童対策地域協議会に参画し、地域における施設の役割を担う。
2. 市町村と委託契約を締結し短期利用事業による受け入れを行っている。
3. 突発的、緊急の事態に即応した一時保護の受け入れを積極的に行っている。

⑥第三者評価の受審状況

評価実施期間（ア）契約日（開始日）	2017/5/1
評価実施期間（イ）評価結果確定日	2017/8/23
受審回数	1回
前回の受審時期	平成26年度

⑦総評

<特に評価の高い点>

1. 安全委員会の取組について

昨年8月に立ち上げた組織で、子どもの自立と権利が守られ、虐待のない安心・安全な暮らしの養育・支援を目指し毎月委員会を開催しています。子どもたちからの要望や意見を聞き、また4年生以上は12項目についてのアンケートを取り、日頃の悩みや改善してほしい事など職員と話し合い、満足した生活が出来るよう問題解決に向けて取り組んでいます。内容については各ユニットや玄関脇に掲示し、だれでも確認できるようにしています。今年度はさらに職員一丸となって子どもたちの生活改善に取り組む姿勢が評価できます。

<改善を要する点>

1. 人材確保について

法人の事業計画にも掲げている人材確保が喫緊の課題となっています。人材不足により、職員が有給休暇の取得が厳しかったり、外部研修への参加が一部の職員にならざるを得ないなど課題がみられます。人材確保に向けて施設側から積極的にハローワークや大学等にアピールし、今後につながるよう期待します。地理的に不便な面があるが魅力ある職場づくりを希望します。

2. 地域との関わりについて

当施設は長い歴史があり地域のなかで受け入れられている存在ですが、国の施策も小規模化・地域分散化を進めている事から地域との関わりが大事になってくると思われれます。また地域社会に対する貢献活動が求められるなか、施設として持っている設備や専門的知識などを活かした取組に期待します。

3. リービングケアとアフターケアの充実について

子どもたちが将来の生活に希望が持てるよう、社会のルールや働くことの意義を学び自立に向けた支援をし、また退所後のアフターケアが継続して行われるよう期待します。

⑧第三者評価結果に対する施設のコメント

・事前アンケートと現場でのリスニングに基づいた的確な評価と感じました。取り組む課題の方向付けが明確なものについてはすでに進行していますが、今回の評価を受けたうえで新たな課題が見えたものや、さらに追及すべき点については計画的に段階を経て改善を図っていきたくと考えています。

・利用者（子どもたち）へのアンケートのまとめには、職員が大切にしたい気持ちで接しているコミュニケーションの取り方と、子どもたちが感じているもののギャップが見えてきました。職員の人材不足に加えて経験値の高い職員が退いていく中ではありますが、職員の資質の向上と、組織で取り組む処遇力の向上に向けてなお一層職員の意思統一、融和を図りながら取り組んでいきます。

・高い評価を得ている項目は、今後さらに深く取り組み、信頼性の確保と安定に努めていこうと思います。

第三者評価結果（児童養護施設）

共通評価基準（45項目）Ⅰ 養育・支援の基本方針と組織

1 理念・基本方針

(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。		第三者 評価結果	
①	1 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	b	1
	<input type="checkbox"/> 理念、基本方針が文書（事業計画等の法人・施設内の文書や広報誌、パンフレット、ホームページ等）に記載されている。		
	<input type="checkbox"/> 理念は、法人・施設が実施する養育・支援の内容や特性を踏まえた法人・施設の使命や目指す方向、考え方を読み取ることができる。		
	<input type="checkbox"/> 基本方針は、法人の理念との整合性が確保されているとともに、職員の行動規範となるよう具体的な内容となっている。		
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、会議や研修会での説明、会議での協議等をもって、職員への周知が図られている。		
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、わかりやすく説明した資料を作成するなどの工夫がなされ、子どもや保護者等への周知が図られている。		
<input type="checkbox"/> 理念や基本方針の周知状況を確認し、継続的な取組を行っている。			
【コメント】			
法人としての理念と基本方針を全職員が養育・支援の振り返りとして理解・認識しているとまでは至っていないので、職員会議等で更に周知を図っていくとしている。子どもたちには今のところ周知する取組は行われていない。広報誌「ふたば」やパンフレット等に記載し関係機関に配布している。			

2 経営状況の把握

(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。		第三者 評価結果	
①	2 施設経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	b	2
	<input type="checkbox"/> 社会福祉事業全体の動向について、具体的に把握し分析している。		
	<input type="checkbox"/> 地域の各種福祉計画の策定動向と内容を把握し分析している。		
	<input type="checkbox"/> 子どもの数・子ども像等、養育・支援のニーズ、潜在的に支援を必要とする子どもに関するデータを収集するなど、法人・施設が位置する地域での特徴・変化等の経営環境や課題を把握し分析している。		
	<input type="checkbox"/> 定期的に養育・支援のコスト分析や施設入所を必要とする子どもの推移、利用率等の分析を行っている。		
【コメント】			
長い歴史のなかで培われてきたものを大事にしながら、現在の社会情勢や環境の変化を考慮し、養護施設をどう運営していくか施設長は経営状況を把握している。また県の指導監査も受けている。養育・支援について地域との関わりを重視し、行政機関・学校・地区の理解を得ながら経営を進めている。			

②	3 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。	b	3
	<input type="checkbox"/> 経営環境や養育・支援の内容、組織体制や設備の整備、職責体制、人材育成、財務状況等の現状分析にもとづき、具体的な課題や問題点を明らかにしている。		
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、役員(理事・監事等)間での共有がなされている。		
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、職員に周知している。		
	<input type="checkbox"/> 経営課題の解決・改善に向けて具体的な取組が進められている。		
【コメント】			
昨年から今年にかけてグラウンドの整備が行われ、子どもたちにとって良い環境ができている。経営課題については担当部署ごとに把握し、職員の周知は図られているが更にそれらの具体的な取組につながるよう望まれる。			

3 事業計画の策定

(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	第三者 評価結果		
①	4 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	b	4
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画において、理念や基本方針の実現に向けた目標(ビジョン)を明確にしている。		
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、経営課題や問題点の解決・改善に向けた具体的な内容になっている。		
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。		
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は必要に応じて見直しを行っている。		
【コメント】			
「家庭的養護推進計画」の策定により、30年度末までに小規模施設1か所をつくる予定となっている。その後41年度までにファミリーホーム2か所を開設予定でそれに伴う財政についての試算も行われている。ハード面では小規模ユニット化がすでに済んでおり機能している。			
②	5 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	b	5
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画には、中・長期計画の内容を反映した単年度における事業内容が具体的に示されている。		
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、実行可能な具体的な内容となっている。		
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、単なる「行事計画」になっていない。		
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。		
【コメント】			
中・長期ビジョンにもとづいて進めようとしている事業も昨年、数名の退職者があり、現在人材不足が喫緊の課題となっている。昨年8月に立ち上げた「安全委員会」の取組をさらに推し進め、子どもの安心・安全な養育を目指している。			

(2) 事業計画が適切に策定されている。			
①	6 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	b	6
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員等の参画や意見の集約・反映のもとで策定されている。		
	<input type="checkbox"/> 計画期間中において、事業計画の実施状況が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて把握されている。		
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて評価されている。		
	<input type="checkbox"/> 評価の結果にもとづいて事業計画の見直しを行っている。		
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員に周知(会議や研修会における説明等)されており、理解を促すための取組を行っている。		

【コメント】

事業計画は職員に周知しているが、施設長は全職員が目的意識の共有を図って取組むことが良い養育・支援につながる事を会議等で伝えている。

②		7 事業計画は、子どもや保護者等に周知され、理解を促している。	b	7
		<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容が、子どもや保護者等に周知(配布、掲示、説明等)されている。		
		<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を子ども会や保護者会等で説明している。		
		<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成するなどの方法によって、子どもや保護者等がより理解しやすいような工夫を行っている。		
		<input type="checkbox"/> 事業計画については、子どもや保護者等の参加を促す観点から周知、説明の工夫を行っている。		

【コメント】

事業計画は保護者の家庭事情や親の状態を考慮し、書面では渡しておらず個々に口頭で伝え説明している。行事計画や学校行事等は都度伝えている。子どもに向けた取組は十分とはいえないので今後の工夫に期待したい。

4 養育・支援の質の向上への組織的・計画的な取組

(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。		第三者 評価結果	
①	8 養育・支援の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	b	8
	<input type="checkbox"/> 組織的にPDCAサイクルにもとづく養育・支援の質の向上に関する取組を実施している。		
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容について組織的に評価(C: Check)を行う体制が整備されている。		
	<input type="checkbox"/> 定められた評価基準にもとづいて、年に1回以上自己評価を行うとともに、第三者評価等を定期的に受審している。		
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析・検討する場が、施設として位置づけられ実行されている。		

【コメント】

ユニット制になり、毎月のユニット会議では日頃の養育に関する問題や子どもたちの具体的な話し合いのほか、「安全委員会」を中心に子どもたちからの要望や意見を聞き、出された意見や悩みなどの解決に向けて生活の改善につないでいる。結果は各ユニットのリビングに掲示し、対策や回答を行っている。

②	9 評価結果にもとづき施設として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	b
	□評価結果を分析した結果やそれにもとづく課題が文書化されている。	
	□職員間で課題の共有化が図られている。	
	□評価結果から明確になった課題について、職員の参画のもとで改善策や改善計画を策定する仕組みがある。	
	□評価結果にもとづく改善の取組を計画的に行っている。	
	□改善策や改善の実施状況の評価を実施するとともに、必要に応じて改善計画の見直しを行っている。	

【コメント】

この度の自己評価から職員一人ひとりの考え方や受け止め方に違いが見られるため、職員全員で目的意識の共有を図りながら、改善点について年度末までに見直し、来年度の事業計画に反映できるよう図っている。

II 施設の運営管理

1 施設長の責任とリーダーシップ

(1) 施設長の責任が明確にされている。		第三者 評価結果	
①	10 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。 <input type="checkbox"/> 施設長は、自らの施設の経営・管理に関する方針と取組を明確にしている。 <input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任について、施設内の広報誌等に掲載し表明している。 <input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任を含む職務分掌等について、文書化するとともに、会議や研修において表明し周知が図られている。 <input type="checkbox"/> 平常時のみならず、有事(災害、事故等)における施設長の役割と責任について、不在時の権限委任等を含め明確化されている。	b	10
【コメント】 今年度、新施設長になり責任を職務分掌に明記し、職員会議で表明している。また広報誌「ふたば」に記載し、支援団体・行政機関・学校・ボランティア等に配布し理解と協力を仰いでいる。子どもたちには年度始め全員に口頭で話をしている。			
②	11 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。 <input type="checkbox"/> 施設長は、遵守すべき法令等を十分に理解しており、利害関係者(取引事業者、行政関係者等)との適正な関係を保持している。 <input type="checkbox"/> 施設長は、法令遵守の観点での経営に関する研修や勉強会に参加している。 <input type="checkbox"/> 施設長は、環境への配慮等も含む幅広い分野について遵守すべき法令等を把握し、取組を行っている。 <input type="checkbox"/> 施設長は、職員に対して遵守すべき法令等を周知し、また遵守するための具体的な取組を行っている。	a	11
【コメント】 施設長は自らが十分理解をしていなければ職員に説明が出来ないということで、改正された法令等は直ちに職員会議等で周知を図り、全国社会福祉協議会・県内児童養護施設等から情報の収集を行い、常に遵守すべきことに関心を払っている。			
(2) 施設長のリーダーシップが発揮されている。			
①	12 養育・支援の質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。 <input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の現状について定期的、継続的に評価・分析を行っている。 <input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質に関する課題を把握し、改善のための具体的な取組を明示して指導力を発揮している。 <input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。 <input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の意見を反映するための具体的な取組を行っている。 <input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の教育・研修の充実を図っている。 <input type="checkbox"/> 施設長は、職員の模範となるように、自己研鑽に励み、専門性の向上に努めている。	b	12
【コメント】 施設長は自らユニット会議に参画し、現場からの声を聞き都度意見や助言を行い養育・支援の質の向上に努めている。組織全体としての継続的な課題・分析につながるよう期待したい。			

②	13 経営の改善や業務の実行性を高める取組に指導力を発揮している。	b	13
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、人事、労務、財務等を踏まえ分析を行っている。		
	<input type="checkbox"/> 施設長は、施設(法人)の理念や基本方針の実現に向けて、人員配置、職員の働きやすい環境整備等、具体的に取り組んでいる。		
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、施設内に同様の意識を形成するための取組を行っている。		
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性を高めるために施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。		
【コメント】			
昨年から今年に入り数名の退職者が出たことから有給休暇が消化しにくいなど、また地理的なことから通院介助等もかなりの時間がとられ、現場の職員の負担が増えている状態にある。施設長は人材確保が喫緊の課題として対策を検討し取り組んでいる。			

2 福祉人材の確保・育成

(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。		第三者 評価結果	14
①	14 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	b	
	<input type="checkbox"/> 必要な福祉人材や人員体制に関する基本的な考え方や、福祉人材の確保と育成に関する方針が確立している。		
	<input type="checkbox"/> 養育・支援に関わる専門職(有資格の職員)の配置等、必要な福祉人材や人員体制について具体的な計画がある。		
	<input type="checkbox"/> 計画にもとづいた福祉人材の確保や育成が実施されている。		
	<input type="checkbox"/> 法人・施設として、効果的な福祉人材確保(採用活動等)を実施している。		
	<input type="checkbox"/> 各種加算職員の配置に積極的に取り組み、人員体制の充実に努めている。		
【コメント】			
退職者がでた影響もあり、ハローワークにも募集をかけているが保育士・指導員の人材確保は厳しい状況にある。職員は組織としての共通意識を持ち、運営委員会・職員会議・ユニット代表者会議・処遇者会議等で何よりもコミュニケーションを密にする場を大切にしている。			

②	15 総合的な人事管理が行われている。	b	15
	<input type="checkbox"/> 法人・施設の理念・基本方針にもとづき「期待する職員像等」を明確にしている。		
	<input type="checkbox"/> 人事基準(採用、配置、異動、昇進・昇格等に関する基準)が明確に定められ、職員等に周知されている。		
	<input type="checkbox"/> 一定の人事基準にもとづき、職員の専門性や職務遂行能力、職務に関する成果や貢献度等を評価している。		
	<input type="checkbox"/> 職員処遇の水準について、処遇改善の必要性等を評価・分析するための取組を行っている。		
	<input type="checkbox"/> 把握した職員の意向・意見や評価・分析等にもとづき、改善策を検討・実施している。		
	<input type="checkbox"/> 職員が、自ら将来の姿を描くことができるような総合的な仕組みづくりができています。		
【コメント】			
人事に関する管理規程を整備し職員にも周知している。人事考課制度はとり入れていないが、必要となるスキルを確保するために平成27年度から4段階に分け、職員それぞれ目標に向けてスキルアップ研修を実施している。			

(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。

①	16 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	b	16
	<input type="checkbox"/> 職員の就業状況や意向の把握等にもとづく労務管理に関する責任体制を明確にしている。		
	<input type="checkbox"/> 職員の有給休暇の取得状況や時間外労働のデータを定期的に確認するなど、職員の就業状況を把握している。		
	<input type="checkbox"/> 職員の心身の健康と安全の確保に努め、その内容を職員に周知している。		
	<input type="checkbox"/> 定期的に職員との個別面談の機会を設ける、職員の悩み相談窓口を施設内に設置するなど、職員が相談しやすいような施設内の工夫をしている。		
	<input type="checkbox"/> 職員の希望の聴取等をもとに、総合的な福利厚生を実施している。		
	<input type="checkbox"/> ワーク・ライフ・バランスに配慮した取組を行っている。		
	<input type="checkbox"/> 改善策については、人材や人員体制に関する具体的な計画に反映し実行している。		
	<input type="checkbox"/> 人材の確保、定着の観点から、施設の魅力を高める取組や働きやすい職場づくりに関する取組を行っている。		

【コメント】

職員の健康診断は年2回実施している。就業状況については人材不足もあり有給休暇は取得しにくい状況にある。働きやすい職場づくりを目指し悩みなど個別に相談を行い、職員の意向を把握する取組に期待したい。

(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。

①	17 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	b	17
	<input type="checkbox"/> 施設として「期待する職員像」を明確にし、職員一人ひとりの目標管理のための仕組みが構築されている。		
	<input type="checkbox"/> 個別面接を行う等施設の目標や方針を徹底し、コミュニケーションのもとで職員一人ひとりの目標が設定されている。		
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりの目標の設定は、目標項目、目標水準、目標期限が明確にされた適切なものとなっている。		
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、中間面接を行うなど、適切に進捗状況の確認が行われている。		
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、年度当初・年度末(期末)面接を行うなど、目標達成度の確認を行っている。		

【コメント】

職員は資格所得を目指すなどそれぞれ目標を持っているが、個別面談は昨年度実施されなかったため今年度に予定している。施設の期待する職員像を明確にし、モチベーションを高めるための今後の取組に期待したい。

②	18 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	b	18
	<input type="checkbox"/> 施設が目指す養育・支援を実施するために、基本方針や計画の中に、「期待する職員像」を明示している。		
	<input type="checkbox"/> 現在実施している養育・支援の内容や目標を踏まえて、基本方針や計画の中に、施設が職員に必要とされる専門技術や専門資格を明示している。		
	<input type="checkbox"/> 策定された教育・研修計画にもとづき、教育・研修が実施されている。		
	<input type="checkbox"/> 定期的に計画の評価と見直しを行っている。		
	<input type="checkbox"/> 定期的に研修内容やカリキュラムの評価と見直しを行っている。		

【コメント】
 年間の研修計画が策定され、外部研修へ参加後は伝達研修で共有を図っている。施設内では外部からの講師を招きスーパービジョンや虐待マニュアル研修を実施し意識向上に努めている。研修カリキュラムの評価や見直しは行われていない。

③	19 職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。	b	19
	<input type="checkbox"/> 個別の職員の知識、技術水準、専門資格の取得状況等を把握している。		
	<input type="checkbox"/> 新任職員をはじめ職員の経験や習熟度に配慮した個別的なOJTが適切に行われている。		
	<input type="checkbox"/> 階層別研修、職種別研修、テーマ別研修等の機会を確保し、職員の職務や必要とする知識・技術水準に応じた教育・研修を実施している。		
	<input type="checkbox"/> 外部研修に関する情報提供を適切に行うとともに、参加を勧奨している。		
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが、教育・研修の場に参加できるよう配慮している。		

【コメント】
 新人の外部研修には1名が出席し、参加者が伝達して共有を図っている。研修履歴のファイルは各自保管している。

(4) 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。

①	20 実習生等の養育・支援に関わる専門職の教育・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	b	20
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援に関わる専門職の教育・育成に関する基本姿勢を明文化している。		
	<input type="checkbox"/> 実習生等の養育・支援の専門職の教育・育成についてのマニュアルが整備されている。		
	<input type="checkbox"/> 専門職種の特性に配慮したプログラムを用意している。		
	<input type="checkbox"/> 指導者に対する研修を実施している。		
	<input type="checkbox"/> 実習生については、学校側と、実習内容について連携してプログラムを整備するとともに、実習期間中においても継続的な連携を維持していくための工夫を行っている。		

【コメント】
 学校側と連携を図り、実習生の受け入れには担当職員を配置して実施している。子どもたちの置かれた立場に配慮しながら実習に取り組んでいる。

3 運営の透明性の確保

(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。		第三者 評価結果	
①	21 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	b	21
	<input type="checkbox"/> ホームページ等の活用により、法人・施設の理念や基本方針、養育・支援の内容、事業計画、事業報告、予算、決算情報が適切に公開されている。		
	<input type="checkbox"/> 施設における地域の福祉向上のための取組の実施状況、第三者評価の受審、苦情・相談の体制や内容について公表している。		
	<input type="checkbox"/> 第三者評価の受審結果、苦情・相談の体制や内容にもとづく改善・対応の状況について公表している。		
	<input type="checkbox"/> 法人・施設の理念、基本方針やビジョン等について、社会・地域に対して明示・説明し、法人・施設の有存在意義や役割を明確にするように努めている。		
	<input type="checkbox"/> 地域へ向けて、理念や基本方針、施設で行っている活動等を説明した印刷物や広報誌等を配布している。		
【コメント】			
第三者評価の受審は今回2回目となり、職員一人ひとりが全項目の自己評価に取り組んでいる。評価結果にもとづき問題や課題に対して質向上を目指している。			
②	22 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	b	22
	<input type="checkbox"/> 施設における事務、経理、取引等に関するルールが明確にされ、職員等に周知している。		
	<input type="checkbox"/> 施設における事務、経理、取引等に関する職務分掌と権限・責任が明確にされ、職員等に周知している。		
	<input type="checkbox"/> 施設における事務、経理、取引等について、必要に応じて外部の専門家に相談し、助言を得ている。		
	<input type="checkbox"/> 施設における事務、経理、取引等について内部監査を実施するなど、定期的に確認されている。		
	<input type="checkbox"/> 外部監査の活用等により、事業、財務に関する外部の専門家によるチェックを行っている。		
	<input type="checkbox"/> 外部監査の結果や公認会計士等による指導や指摘事項にもとづいて、経営改善を実施している。		
【コメント】			
施設の事務・経理に関する業務は職務分掌に明示しているが、全職員への周知までには至っていない。内部での監査は実施し透明性を図っている。			

4 地域との交流、地域貢献

(1) 地域との関係が適切に確保されている。		第三者 評価結果	
①	23 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	b	23
	<input type="checkbox"/> 地域との関わり方について基本的な考え方を文書化している。		
	<input type="checkbox"/> 子どもの個別の状況に配慮しつつ地域の行事や活動に参加する際、必要があれば職員やボランティアが支援を行う体制が整っている。		
	<input type="checkbox"/> 施設や子どもへの理解を得るために、地域の人々に向けた日常的なコミュニケーションを心がけている。		
	<input type="checkbox"/> 子どもの買い物や通院等日常的な活動についても、定型的でなく個々の子どものニーズに応じて、地域における社会資源を利用するよう推奨している。		
	<input type="checkbox"/> 学校の友人等が施設へ遊びに来やすい環境づくりを行っている。		
【コメント】			
広報誌「ふたば」を年2回発行し、行政機関や学校・地域に向け発信している。地区の花植えに参加したり、納涼祭には子どもたちも準備をして地域と合同で行い交流する場面がある。休日には地域の子どもの施設へ遊びに来るなど触れ合う機会を持っている。			
②	24 ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	b	24
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れに関する基本姿勢を明文化している。		
	<input type="checkbox"/> 地域の学校教育等への協力について基本姿勢を明文化している。		
	<input type="checkbox"/> ボランティア受入れについて、登録手続、ボランティアの配置、事前説明等に関する項目が記載されたマニュアルを整備している		
	<input type="checkbox"/> ボランティアに対して子どもとの交流を図る視点等で必要な研修、支援を行っている。		
	<input type="checkbox"/> 学校教育への協力を行っている。		
【コメント】			
広報誌等でボランティアの呼びかけを行っているが市街地から離れていることもあり来訪者が少ないなか、読み聞かせボランティアの方が毎月来訪し幼児や小学低学年生の楽しみになっている。今年度は英語講師の好意で、受験生が講習を受けることができ学力の向上を目指している。			
(2) 関係機関との連携が確保されている。			
①	25 施設として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	b	25
	<input type="checkbox"/> 当該地域の関係機関・団体について、個々の子どもの状況に対応できる社会資源を明示したリストや資料を作成している。		
	<input type="checkbox"/> 職員会議で説明するなど、職員間で情報の共有化が図られている。		
	<input type="checkbox"/> 関係機関・団体と定期的な連絡会等を行っている。		
	<input type="checkbox"/> 地域の関係機関・団体の共通の問題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。		
	<input type="checkbox"/> 地域に適当な関係機関・団体がない場合には、子どものアフターケア等を含め、地域でのネットワーク化に取り組んでいる。		
【コメント】			
児童相談所とは自立支援計画の策定や年に1回のケース検討会を実施し、また子どもが通っている幼稚園・学校関係と連携を取り、情報を共有し職員間でも共通認識を図っている。			

(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。

①	26 施設が有する機能を地域に還元している。	b	26
	<input type="checkbox"/> 施設のスペースを活用して地域住民との交流を意図した取組を行っている。		
	<input type="checkbox"/> 施設の専門性や特性を活かし、地域住民の生活に役立つ講演会や研修会等を開催して、地域へ参加を呼びかけている。		
	<input type="checkbox"/> 施設の専門性や特性を活かした相談支援事業、支援を必要とする地域住民のためのサークル活動等、地域ニーズに応じ住民が自由に参加できる多様な支援活動を行っている。		
	<input type="checkbox"/> 災害時の地域における役割等について確認がなされている。		
	<input type="checkbox"/> 多様な機関等と連携して、社会福祉分野に限らず地域の活性化やまちづくりに貢献している。		

【コメント】

災害時における地域の避難所として新庄市と締結を行っている。納涼祭には地域から大勢の参加があり、触れ合うことで子どもたちのコミュニケーションが図られている。

②	27 地域の福祉ニーズにもとづく公益的な事業・活動が行われている。	c	27
	<input type="checkbox"/> 施設の機能を地域に還元することなどを通じて、地域の福祉ニーズの把握に努めている。		
	<input type="checkbox"/> 民生委員・児童委員等と定期的な会議を開催するなどによって、具体的な福祉ニーズの把握に努めている。		
	<input type="checkbox"/> 地域住民に対する相談事業を実施することなどを通じて、多様な相談に応じる機能を有している。		
	<input type="checkbox"/> 関係機関・団体との連携にもとづき、具体的な福祉ニーズの把握に努めている。		
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズにもとづいて、法で定められた社会福祉事業にとどまらない地域貢献に関わる事業・活動を実施している。		

【コメント】

施設は開設60年を経て地域から理解を得て民生委員・児童委員と会議を行っているが、地域の福祉ニーズの把握については不十分である。今後地域へ分散化し小規模ケアを進めていく上でも、施設から地域へ積極的な働きかけを行う取組に期待したい。

Ⅲ 適切な養育・支援の実施
1 子ども本位の養育・支援

		第三者 評価結果	
(1) 子どもを尊重する姿勢が明示されている。			
①	28 子どもを尊重した養育・支援の実施について共通の理解をもつための取組を行っている。	b	28
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針に、子どもを尊重した養育・支援の実施について明示し、職員が理解し実践するための取組を行っている。		
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する「倫理綱領」や規程等を策定し、職員が理解し実践するための取組を行っている。		
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援実施に関する基本姿勢が、個々の養育・支援の標準的な実施方法等に反映されている。		
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、施設で勉強会・研修を実施している。		
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、定期的に状況の把握・評価等を行い、必要な対応を図っている。		
【コメント】			
子どもたちのユニット会議に職員も同席し、出てきた意見や要望を尊重して子どもの気持ちを理解するよう努めている。共通理解を持つために人権擁護委員会を中心に、職員の勉強会や研修の機会が増えるよう期待したい。			
②	29 子どものプライバシー保護等の権利擁護に配慮した養育・支援の実施が行われている。	b	29
	<input type="checkbox"/> 子どものプライバシー保護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。		
	<input type="checkbox"/> 子どもの虐待防止等の権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。		
	<input type="checkbox"/> 子どものプライバシー保護と虐待防止に関する知識、社会福祉事業に携わる者としての姿勢・責務、子どものプライバシー保護や権利擁護に関する規程・マニュアル等について、職員に研修を実施している。		
	<input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもにとって、生活の場にふさわしい快適な環境を提供し、子どものプライバシーを守れるよう設備等の工夫を行っている。		
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等にプライバシー保護と権利擁護に関する取組を周知している。		
	<input type="checkbox"/> 規程・マニュアル等にもとづいた養育・支援が実施されている。		
	<input type="checkbox"/> 不適切な事案が発生した場合の対応方法等が明示されている。		
【コメント】			
虐待防止マニュアルの周知や山形県児童養護施設協議会で作成した「被措置児童虐待防止マニュアル」を活用し、職員研修を実施している。プライバシーと権利擁護について子どもへの周知を図り、暮らしやすい環境を整える取組が望まれる。			

(2) 養育・支援の実施に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。

①	30 子どもや保護者等に対して養育・支援の利用に必要な情報を積極的に提供している。	b	30
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針、養育・支援の内容や施設の特性等を紹介した資料を準備している。		
	<input type="checkbox"/> 施設を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容にしている。		
	<input type="checkbox"/> 施設に入所予定の子どもや保護者等については、個別に丁寧な説明を実施している。		
	<input type="checkbox"/> 見学等の希望に対応している。		
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に対する情報提供について、適宜見直しを実施している。		

【コメント】

保護者へはパンフレットや広報誌・電話などで情報を提供し、見学等は随時受け入れている。

②	31 養育・支援の開始・過程において子どもや保護者等にわかりやすく説明している。	b	31
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程における養育・支援の内容に関する説明と同意にあたっては、子どもや保護者等の自己決定を尊重している。		
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程においては、子どもや保護者等がわかりやすいように工夫した資料を用いて説明している。		
	<input type="checkbox"/> 説明にあたっては、子どもや保護者等が理解しやすいような工夫や配慮を行っている。		
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程においては、子どもや保護者等の同意を得たうえでその内容を書面で残している。		
	<input type="checkbox"/> 意思決定が困難な子どもや保護者等への配慮についてルール化され、適正な説明、運用が図られている。		

【コメント】

面会の情報交換時には保護者等の個々に合わせて支援内容の情報を提供している。意思決定の困難な子どもや保護者等に対して、口頭での説明では理解されにくいいため、わかりやすい資料にもとづいた説明が望まれる。

③	32 措置変更や地域・家庭への移行等にあたり養育・支援の継続性に配慮した対応を行っている。	b	32
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容の変更にあたり、従前の内容から著しい変更や不利益が生じないように配慮されている。		
	<input type="checkbox"/> 他の施設や地域・家庭への移行にあたり、養育・支援の継続性に配慮した手順と引継ぎ文書を定めている。		
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した後も、施設として子どもや保護者等が相談できるように担当者や窓口を設置している。		
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した時に、子どもや保護者等に対し、その後の相談方法や担当者について説明を行い、その内容を記載した文書を渡している。		

【コメント】

地域・家庭への退所あるいは移行した場合は、家庭支援専門相談員が1～2年程度の訪問と電話での状況確認や相談に応じているが、その後のアフターケアの継続できるような工夫に期待したい。

(3) 子どもの満足の向上に努めている。		第三者 評価結果		
	①	33 子どもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	b	33
		<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査が定期的に行われている。		
		<input type="checkbox"/> 子どものへの個別の相談面接や聴取等が、子どもの満足を把握する目的で定期的に行われている。		
		<input type="checkbox"/> 職員等が、子どもの満足を把握する目的で、子ども会等に出席している。		
		<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査の担当者等の設置や、把握した結果を分析・検討するために、子ども参画のもとで検討会議の設置等が行われている。		
	<input type="checkbox"/> 分析・検討の結果にもとづいて具体的な改善を行っている。			

【コメント】

ユニット毎の代表者が毎月子どもたちの意見や要望を聞き、内容を安全委員会で検討し、生活の改善を図り不満のない暮らしを目指しているが、勤務経験の浅い職員は対応しきれない部分もある。今後子どもとの信頼関係を築く取組に期待したい。

(4) 子どもが意見等を述べやすい体制が確保されている。				
	①	34 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	b	34
		<input type="checkbox"/> 苦情解決の体制(苦情解決責任者の設置、苦情受付担当者の設置、第三者委員の設置)が整備されている。		
		<input type="checkbox"/> 苦情解決の仕組みをわかりやすく説明した掲示物が掲示され、資料を子どもや保護者等に配布し説明している。		
		<input type="checkbox"/> 苦情記入カードの配布やアンケート(匿名)を実施するなど、子どもや保護者等が苦情を申し出しやすい工夫を行っている。		
		<input type="checkbox"/> 苦情内容については、受付と解決を図った記録が適切に保管している。		
		<input type="checkbox"/> 苦情内容に関する検討内容や対応策については、子どもや保護者等に必ずフィードバックしている。		
		<input type="checkbox"/> 苦情内容及び解決結果等は、苦情を申し出た子どもや保護者等に配慮したうえで、公表している。		
	<input type="checkbox"/> 苦情相談内容にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。			

【コメント】

苦情解決規程にもとづいた責任者・苦情受付担当者・第三者委員が設置され整備が図られている。苦情相談は保護者等と子どもに児童相談所の電話番号を知らせているので、児童相談所での対応が主になっている。

	②	35 子どもが相談や意見を述べやすい環境を整備し、子ども等に周知している。	b	35
		<input type="checkbox"/> 子どもが相談したり意見を述べたりする際に、複数の方法や相手を自由に選べることをわかりやすく説明した文書を作成している。		
		<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に、その文章の配布やわかりやすい場所に掲示する等の取組を行っている。		
		<input type="checkbox"/> 相談をしやすい、意見を述べやすいスペースの確保等の環境に配慮している。		

【コメント】

毎月の意見聴取やアンケートにもとづき安全委員会で分析や検討を行い、改善・危険防止・安全対策等を記載した内容を毎月掲示し、理解と安心が得られるよう取組んでいる。

③	36 子どもからの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	b	36
	<input type="checkbox"/> 相談や意見を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について定めたマニュアル等を整備している。		
	<input type="checkbox"/> 対応マニュアル等の定期的な見直しを行っている。		
	<input type="checkbox"/> 職員は、日々の養育・支援の実施において、子どもが相談しやすく意見を述べやすいように配慮し、適切な相談対応と意見の傾聴に努めている。		
	<input type="checkbox"/> 意見箱の設置、アンケートの実施等、子どもの意見を積極的に把握する取組を行っている。		
	<input type="checkbox"/> 職員は、把握した相談や意見について、検討に時間がかかる場合に状況を速やかに説明することを含め迅速な対応を行っている。		
	<input type="checkbox"/> 意見等にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。		

【コメント】

意見箱の利用は殆どなく会話やアンケートの中から出てくる意見等を集約して、その内容を養育・支援の質向上につなげている。

(5) 安心・安全な養育・支援の実施のための組織的な取組が行われている。		第三者 評価結果	37
①	37 安心・安全な養育・支援の実施を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	b	
	<input type="checkbox"/> リスクマネジメントに関する責任者の明確化(リスクマネジャーの選任・配置)、リスクマネジメントに関する委員会を設置するなどの体制を整備している。		
	<input type="checkbox"/> 事故発生時の対応と安全確保について責任、手順(マニュアル)等を明確にし、職員に周知している。		
	<input type="checkbox"/> 子どもの安心と安全を脅かす事例の収集が積極的に行われている。		
	<input type="checkbox"/> 収集した事例をもとに、職員の参画のもとで発生要因を分析し、改善策・再発防止策を検討・実施する等の取組が行われている。		
	<input type="checkbox"/> 職員に対して、安全確保・事故防止に関する研修を行っている。		
	<input type="checkbox"/> 事故防止策等の安全確保策の実施状況や実効性について、定期的に評価・見直しを行っている。		

【コメント】

昨年発足した安全委員会を中心に、子どもの遊びでのヒヤリハットや登下校での交通ルール、施設設備の故障や危険個所の把握に努めている。事例をもとに改善策・安全策を講じて口頭での周知や内容掲示を行い、安心・安全を図っている。

②	38 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	b	38
	<input type="checkbox"/> 感染症対策について、責任と役割を明確にした管理体制が整備されている。		
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を作成し、職員に周知徹底している。		
	<input type="checkbox"/> 担当者等を中心にして、定期的に感染症の予防や安全確保に関する勉強会等を開催している。		
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防策が適切に講じられている。		
	<input type="checkbox"/> 感染症の発生した場合には対応が適切に行われている。		
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を定期的に見直している。		

【コメント】
 感染症対策についてマニュアルは作成されているが、職員全員の周知までは至っていない。特にノロウイルスなどの緊急時の対応・体制が望まれる。

③	39 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。	b	39
	<input type="checkbox"/> 災害時の対応体制が決められている。		
	<input type="checkbox"/> 立地条件等から災害の影響を把握し、建物・設備類、養育・支援を継続するために必要な対策を講じている。		
	<input type="checkbox"/> 子ども及び職員の安否確認の方法が決められ、すべての職員に周知されている。		
	<input type="checkbox"/> 食料や備品類等の備蓄リストを作成し、管理者を決めて備蓄を整備している。		
	<input type="checkbox"/> 防災計画等整備し、地元の行政をはじめ、消防署、警察、自治会、福祉関係団体等と連携するなど、体制をもって訓練を実施している。		

【コメント】
 災害時に向けた訓練を、想定と避難経路を毎月変えて実施し、子どもたちが災害に合わせた避難対応ができるよう導き、子どもたちの安全確保につなげている。

2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の標準的な実施方法が確立している。	第三者 評価結果	40	
①	40 養育・支援について標準的な実施方法が文書化され養育・支援が実施されている。		b
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法が適切に文書化されている。		
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法には、子どもの尊重、プライバシーの保護や権利擁護に関わる姿勢が明示されている。		
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。		
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法にもとづいて実施されているかどうかを確認する仕組みがある。		

【コメント】
 標準的な実施方法を文書化し、子どものプライバシー保護や権利擁護にも配慮しながら取り組んでいるが、職員への周知徹底まで至っていない。職員の知識や経験の違い等による養育・支援の水準や内容の差異を極力なくし、周知を図る取組に期待したい。

②	41 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	b	41
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しに関する時期やその方法が施設で定められている。		
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しが定期的に行われている。		
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、自立支援計画の内容が必要に応じて反映されている。		
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、職員や子ども等からの意見や提案が反映されるような仕組みになっている。		

【コメント】

子どもたちとのユニット会議を開き、子ども一人ひとりの目標（自分で起きれるように、忘れ物はしない等）を自ら毎月定め、ユニット職員と他の職員も共有を図り、反省をしながら日々成長につながるよう取り組んでいる。

(2) 適切なアセスメントにより自立支援計画が策定されている。

①	42 アセスメントにもとづく個別的な自立支援計画を適切に策定している。	b	42
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画策定の責任者を設置している。		
	<input type="checkbox"/> アセスメント手法が確立され、適切なアセスメントが実施されている。		
	<input type="checkbox"/> 部門を横断したさまざまな職種の関係職員（種別によっては施設以外の関係者も）が参加して、アセスメント等に関する協議を実施している。		
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画には、子ども一人ひとりの具体的なニーズが明示されている。		
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を策定するための部門を横断したさまざまな職種による関係職員（種別によっては組織以外の関係者も）の合議、子どもの意向把握と同意を含んだ手順を定めて実施している。		
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画どおりに養育・支援が行われていることを確認する仕組みが構築され、機能している。		
	<input type="checkbox"/> 支援困難ケースへの対応について検討し、積極的かつ適切な養育・支援が行われている。		

【コメント】

児童自立支援計画作成要綱の年間計画にもとづき、はじめは入所児童フェイスシート（アセスメントシート）を作成し、1か月後に自立支援計画を作成して、半年毎にニーズの把握や評価見直し修正等まで行っている。

	<p>② 43 定期的に自立支援計画の評価・見直しを行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 自立支援計画の見直しについて、見直しを行う時期、検討会議の参加職員、子どもの意向把握と同意を得るための手順等、組織的な仕組みを定めて実施している。</p> <p><input type="checkbox"/> 見直しによって変更した自立支援計画の内容を、関係職員に周知する手順を定めて実施している。</p> <p><input type="checkbox"/> 自立支援計画を緊急に変更する場合の仕組みを整備している。</p> <p><input type="checkbox"/> 自立支援計画の評価・見直しにあたっては、標準的な実施方法に反映すべき事項、養育・支援を十分に実施できていない内容(ニーズ)等、養育・支援の質の向上に関わる課題等が明確にされている。</p>	b	43
【コメント】			
自立支援計画は、半年に1回見直しを行いPDCA（計画・実行・評価・見直し）サイクルを継続実施して、養育・支援の質の向上につなげている。			
(3) 養育・支援の実施の記録が適切に行われている。			
	<p>① 44 子どもに関する養育・支援の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの身体状況や生活状況等を、施設が定めた統一した様式によって把握し記録している。</p> <p><input type="checkbox"/> 自立支援計画にもとづく養育・支援が実施されていることを記録により確認することができる。</p> <p><input type="checkbox"/> 記録する職員で記録内容や書き方に差異が生じないように、記録要領の作成や職員への指導等の工夫をしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 施設における情報の流れが明確にされ、情報の分別や必要な情報が的確に届くような仕組みが整備されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 情報共有を目的とした会議の定期的な開催等、部門横断での取組がなされている。</p> <p><input type="checkbox"/> パソコンのネットワークシステムの利用や記録ファイルの閲覧等を実施して、施設内で情報を共有する仕組みが整備されている。</p>	b	44
【コメント】			
施設内のユニット毎にパソコンを配置し、職員が統一された様式に入力ができ、いつでも閲覧できるシステムを構築しており、職員全員で共有化を図っている。			
	<p>② 45 子どもに関する記録の管理体制が確立している。</p> <p><input type="checkbox"/> 個人情報保護規程等により、子どもの記録の保管、保存、廃棄、情報の提供に関する規定を定めている。</p> <p><input type="checkbox"/> 個人情報の不適正な利用や漏えいに対する対策と対応方法が規定されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 記録管理の責任者が設置されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 記録の管理について個人情報保護の観点から、職員に対し教育や研修が行われている。</p> <p><input type="checkbox"/> 職員は、個人情報保護規程等を理解し、遵守している。</p> <p><input type="checkbox"/> 個人情報の取扱いについて、子どもや保護者等に説明している。</p>	b	45

【コメント】

子どもの記録・保管は、個人情報保護規程等にもとづいた管理で行われているが、個人情報保護規程等の職員全員の周知が少ないことから、理解を深める教育研修が行われるよう期待したい。

内容評価基準（41項目） A-1 子ども本位の養育・支援

(1) 子どもの尊重と最善の利益の考慮		第三者 評価結果	
①	A1 社会的養護が子どもの最善の利益を目指して行われることを職員が共通して理解し、日々の養育・支援において実践している。	b	A1
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容が子どもにとって最善の利益になっているかを、振り返り検証する機会が設けられている。		
	<input type="checkbox"/> 子どもの養育や成長にとって何が最善なのかを、職員間において常に話し合える環境にある。		
	<input type="checkbox"/> 職員が日々子どもとのやり取りを振り返り、必要に応じてスーパービジョンを受けられる環境が整っている。		
	<input type="checkbox"/> 受容的・支持的なかかわりを基本としながらも、養育者として伝えるべきメッセージはきちんと伝えるなど、子どもの状況に応じて適切な対応ができるよう、常に子どもの最善の利益を考慮し真摯に向き合っている。		
【コメント】			
子どもの話を聞く、否定することをせずに本音を聞くことに注力し、信頼関係を大切にしながら関わっている。自立支援計画にもとづき、日々の問題について、その日の感情に寄り添って支援している。職員全員で何が最善の利益なのか振り返り共通理解が深まる事が望まれる。			
②	A2 子どもの発達段階に応じて、子ども自身の出生や生い立ち、家族の状況について、子どもに適切に知らせている。	b	A2
	<input type="checkbox"/> 子どもの発達段階等に応じて、適切に事実を伝えようと努めている。		
	<input type="checkbox"/> 事実を伝える場合には、個別の事情に応じて慎重に対応している。		
	<input type="checkbox"/> 伝え方や内容などについて職員会議等で確認し、職員間で共有している。		
	<input type="checkbox"/> 事実を伝えた後、子どもの変容などを十分把握するとともに、適切なフォローを行っている。		
【コメント】			
一人ひとりの子どもが置かれている環境や発達段階に配慮し、職員一人の判断で行わず、児童相談所や施設長等と相談し情報提供を行うようにしている。			

(2) 権利についての説明

①	A3 子どもに対し、権利について正しく理解できるよう、わかりやすく説明している。	b	A3
	<input type="checkbox"/> 定期的に全体の場で権利についての理解を深めるよう、子どもたちに説明している。		
	<input type="checkbox"/> 権利ノートやそれに代わる資料等を使用して、施設生活の中で保障されるさまざまな権利についてわかりやすく説明している。		
	<input type="checkbox"/> 年齢に配慮した説明を工夫している。(例えば高校生、中学生、小学生などに分けた説明の機会)		
	<input type="checkbox"/> 定期的に職員間で子どもの権利に関する学習機会を持っている。		
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりがかけがえのない大切な存在であり、自分を傷つけたりおとしめたりしてはならないことまた、他人を傷つけたり脅かしたりしてはならないことが、日々の養育の中で伝わっている。		

【コメント】

権利ノートの活用を考え配布したが、子どもによって取組はまちまちなので話し合いの場を大切にしている。昨年立ち上げた「安全委員会」が子どもの意見を聞く良い機会となっており、安心・安全な暮らしにつながっている。「児童養護施設における人権擁護のためのチェックリスト」を実施し結果は職員で共有している。

(3) 他者の尊重

①	A4 様々な生活体験や多くの人たちとのふれあいを通して、他者への心づかいや他者の立場に配慮する心が育まれるよう支援している。	b	A4
	<input type="checkbox"/> 基本的な信頼感を獲得するなど良好な人間関係を築くために職員と子どもとが個別的にふれあう時間を確保している。		
	<input type="checkbox"/> 喧嘩など子ども間でトラブルが生じた場合、相手の人格を尊重しながら、基本的には子ども同士で関係を修復できるよう支援をしている。		
	<input type="checkbox"/> 日々の生活や行事等で、子どもが協働して行う場面では、助け合い、認め合い、協力し合い、感謝し合う態度を促進するよう支援している。		
	<input type="checkbox"/> 年下の子どもや障がいのある子どもなど弱い立場にある仲間に対しては、思いやりの心をもって接するように支援している。		

【コメント】

ユニット制で異年齢児との共同生活を通しておもいよりの心を持てるよう取組んでいるが、感情が先行する場面があり、職員が間に入って解決に導いている。年間の様々な行事では地域の方との交流があり、子どもたちの楽しみとなっている。

(4) 被措置児童等虐待対応

①	A5 いかなる場合においても体罰や子どもの人格を辱めるような行為を行わないよう徹底している。	a	A5
	<input type="checkbox"/> 「就業規則」等の規程に体罰等の禁止を明記しており、規程に基づいて厳正に処分などを行う仕組みが行われている。		
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待防止ガイドラインに示されているような具体的な例を示して、日常的な会議や研修会等で体罰等を禁止している。		
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等への虐待行為や不適切対応があった場合、主管行政窓口や児童相談所等に報告するとともに第三者委員等も入れて適切な調査をし、対処することが出来ている。		

【コメント】

いかなる場合も体罰は行わないことを就業規則に明記し、職員には周知徹底している。万が一体罰が認められた場合は県・児童相談所等に届出・通告し処分を行う仕組みができています。さらに子どもからの誤解を招くことのないよう職員の言動や行為に留意する取組に期待したい。

②	A6 子どもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	b	A6
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりがあった場合を想定して、施設長が職員・子ども双方にその原因や方法・程度等、事実確認をすることや、「就業規則」等の規程に基づいて厳正に処分を行うような仕組みがつけられている。		
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりを発見した場合には、記録し、必ず施設長等に報告することが明文化されている。		
	<input type="checkbox"/> 暴力、人格的辱め、心理的虐待などの不適切なかかわりの防止について、具体的な例を示し、職員に徹底している。		
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止を徹底するため、日常的に会議等で取り上げ、行われていないことを確認している。		
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止について、具体的な例を示して、子どもに周知している。		
	<input type="checkbox"/> 子どもが自分自身を守るための知識、具体的方法について学習する機会を設けている。		

【コメント】

日々の養育・支援するなかで不適切な関わりや言動がないようにしているが、突発的な出来事には対応が遅れることもある。未然に防止・早期発見に努め、子どもからの訴えやサインを見逃さないよう取組に期待したい。

③	A7 被措置児童等虐待の届出・通告に対する対応を整備し、迅速かつ誠実に対応している。	b	A7
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告制度について、対応マニュアルが整備され、かつ日常的に活用できるようにしている。		
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告があった場合に、届出者・通告者が不利益を受けることのない仕組みが整備・徹底されている。		
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待が疑われる事案が生じたときに、施設内で検証し、第三者の意見を聞くなどの迅速かつ誠実な対応をするための体制整備ができています。		
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告制度について説明した資料を子ども等に配布、説明しているとともに、掲示物を掲示するなどして、子どもが自ら訴えることができるようにしている。		

【コメント】

県養護施設協議会の児童虐待防止マニュアルに従い、当施設の対応マニュアルとして、施設長は届出・通告について理解し、職員にも周知している。

(5) 思想や信教の自由の保障

①	A8 子どもや保護者等の思想や信教の自由を保障している。	a	A8
	<input type="checkbox"/> 子どもの思想・信教の自由については、最大限に配慮し保障している。		
	<input type="checkbox"/> 施設において子どもの思想や信教の自由を保障しようと努めているが十分ではない。		
	<input type="checkbox"/> 保護者等の思想・信教によってその子どもの権利が損なわれないよう配慮している。		

【コメント】

子どもの思想や信教の自由は守られており意向を尊重している。過去に保護者の宗教や文化の違いなどの事例もあったが職員は理解を示している。

<p>(6) こどもの意向や主体性への配慮</p>	<p>① A9 子どものそれまでの生活とのつながりを重視し、そこから分離されることに伴う不安を理解し受けとめ、不安の解消を図っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 入所した時、温かく迎える準備をしているなど様々な工夫を凝らし、受け入れについて施設全体で行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 被虐待体験だけでなく、子どもの分離体験に関して施設側が理解し、配慮している。</p> <p><input type="checkbox"/> 分離体験からの回復に関する課題への具体的な取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 入所の相談から施設での生活が始まるまで、子どもや保護者等への対応についての手順を定めており、定期的に見直しを行い、実践している。</p>	<p>b</p>	<p>A9</p>
<p>【コメント】</p> <p>児童相談所と連携で見学に来てもらい少しでも不安がないように職員は配慮している。子どもが夜眠れずに泣いたりする場合は傍に寄り添い、不安の解消に努めている。</p>			
	<p>② A10 職員と子どもが共生の意識を持ち、子どもの意向を尊重しながら生活全般について共に考え、生活改善に向けて積極的に取り組んでいる。</p> <p><input type="checkbox"/> 生活改善に向けての取組を職員と子どもが共に考え、実施している。</p> <p><input type="checkbox"/> 生活日課や生活プログラムは子どもとの話し合いを通じて策定している。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもが自分たちの生活における問題や課題について主体的に検討する機会を日常的に確保している。</p>	<p>b</p>	<p>A10</p>
<p>【コメント】</p> <p>基本的な生活や日課については施設側の主導でプログラムを作成している。日々の暮らしのなかでおこる小さな事はユニット毎に子どもの話し合いで解決を図り、また一人ひとりの目標をきめて生活の改善に取り組んでいる。</p>			
<p>(7) 主体性、自律性を尊重した日常生活</p>	<p>① A11 日々の暮らしや、余暇の過ごし方など健全な生活のあり方について、子ども自身が主体的に考え生活できるよう支援している。</p> <p><input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもの趣味や興味、生活文化にあった生活になるように子どもの意見を反映させ、適宜改変している。</p> <p><input type="checkbox"/> 図書、雑誌、新聞等、またテレビ、ビデオ、オーディオ等が、子どもの健全な発達に考慮したうえで、自由に使用できる。また、ゲームの適切な使用の配慮がされている。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもが主体的に生活に関わることができるよう工夫がされている。</p> <p><input type="checkbox"/> 活動に対して自発的な参加を促すよう支援している。</p> <p><input type="checkbox"/> 行事等の参画について、子ども一人ひとりの選択を尊重している。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもが地域の活動等に参加することを望む場合、可能な限りそれに応えている。</p>	<p>b</p>	<p>A11</p>
<p>【コメント】</p> <p>子どもからの要望にスマートフォンの所持があり、全体を考えて時期などを話し合っている。受験を控えた子どもが今年から市内の方の協力で英語塾に通うことができ学力向上が期待される。夏休みは過半数以上の子どもが帰省し親と過ごす時間を持っている。また夏まつりや納涼祭に全員参加して地域の方と触れあう機会がある。</p>			

	②	A12 子どもの発達段階に応じて、金銭の管理や使い方など経済観念が身につくよう支援している。	b	A12
		<input type="checkbox"/> 小遣い帳や通帳を使って、限られたお金を計画的に使用する、金銭の自己管理ができるよう支援している。		
		<input type="checkbox"/> 大人と一緒に買物に行ったり、一人で買物をさせるなど物の値段の相場や、金銭感覚が身につくよう支援している。		
		<input type="checkbox"/> 自立を控えた子どもなど、必要な子どもに対し、一定の生活費の範囲で生活することを学ぶプログラムを実施している。		
		<input type="checkbox"/> 児童手当等について、子どもの目的にあわせ適切に使用または貯蓄をしている。		

【コメント】

児童手当は個別に貯金しており、小遣いは施設の特別訓練費の中から支給している。日常的に買い物に出掛ける機会が少ないなか、数回市内のスーパーなどへ出掛け、金銭感覚を養っている。

(8) 継続性とアフターケア

	①	A13 家庭復帰にあたって、子どもが家庭で安定した生活を送ることができるよう復帰後の支援を行っている。	b	A13
		<input type="checkbox"/> 家庭復帰にあたって復帰後の生活を検討している。		
		<input type="checkbox"/> 家庭復帰後の子どもや家族の状況把握や支援方法など関係機関との役割を明確にしている。		
		<input type="checkbox"/> 家庭復帰相談を受けることを本人、保護者等に伝えている。		
		<input type="checkbox"/> 家庭復帰後の子どもや保護者等の状況の把握に努め記録を整備している。		

【コメント】

家庭支援専門相談員が窓口となり、児童相談所や関係機関と協議して家庭復帰につないでいる。復帰後の経過等は訪問して記録している。退所後1~2年は連絡があるが、数年が経過すると現状の把握が難しいケースもある。

	②	A14 できる限り公平な社会へのスタートが切れるように、措置継続や措置延長を積極的に利用して継続して支援している。	b	A14
		<input type="checkbox"/> 高校進学が困難な子どもや高校中退の子どもなどについて措置継続を行い、自立に向けた支援を行っている。		
		<input type="checkbox"/> 措置延長の期間は、就労支援や就労生活を支援するなど、自立への道筋をつけていく取組を行っている。		
		<input type="checkbox"/> 高校卒業して進学あるいは就職した子どもであっても、不安定な生活が予想される場合は、必要に応じて措置延長を利用して支援を継続している。		

【コメント】

高校中退者や療育手帳を持っている子どもなど、学校や自立サポートセンターの協力でグループホームのある施設へ入所するなどの支援を行っている。

③	A15 子どもが安定した社会生活を送ることができるようリービングケアと退所後の支援に積極的に取り組んでいる。	b	A15
	<input type="checkbox"/> 子どものニーズを把握し、退所後の生活に向けてリービングケアの支援を行っている。		
	<input type="checkbox"/> 退所後も施設に相談できる窓口(担当者)があり、支援をしていくことを伝えている。		
	<input type="checkbox"/> 退所者の状況の把握に努め、記録が整備されている。		
	<input type="checkbox"/> 行政機関や福祉機関、あるいは民間団体等と連携を図りながらアフターケアを行っている。		
	<input type="checkbox"/> 本人からの連絡だけでなく、就労先、アパート等の居住先からの連絡、警察等からのトラブル発生時の連絡などにも対応している。		
	<input type="checkbox"/> 退所者が集まれる機会や、退所者と職員・入所している子どもとが交流する機会を設けている。		
【コメント】			
退所後の自立に向けたハンドブックを活用し、相談できる体制はある。就労先や警察署、福祉機関等とも協力して対応している。安定した社会生活を送るためのリービングケアに関してはまだ十分な取組が行われていない。			

A-2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の基本		第三者 評価結果	
①	A16 子どもを理解し、子どもが表出する感情や言動をしっかり受け止めている。	b	A16
	<input type="checkbox"/> 職員はさまざまな知見や経験によって培われた感性に基づいて子どもを理解し、受容的・支持的な態度で寄り添い、子どもと共に課題に向き合っている。		
	<input type="checkbox"/> 子どもの生育歴を知り、そのときどきで子どもの心に何が起こっていたのかを理解している。		
	<input type="checkbox"/> 子どもが表出する感情や言動のみを取り上げるのではなく、被虐待体験や分離体験などに伴う苦痛・いかり、見捨てられ感も含めて、子どもの心に何が起こっているのかを理解しようとしている。		
	<input type="checkbox"/> 子どもに行動上の問題等があった場合、単にその行為を取り上げて叱責するのではなく、背景にある心理的課題の把握に努めている。		
	<input type="checkbox"/> 子ども達に職員への信頼が芽生えていることが、利用者アンケートを通じて感じられる。		
【コメント】			
毎月の安全委員会で子どもから日常生活の様々な意見や要望を聞き取り、一人ひとりに寄り添った支援をしている。職員のなかには経験や年齢などで対応が違う場面も見られるので、職員間で共有する場を持ち、統一した援助ができるよう取組に期待したい。			

②	A17 基本的欲求の充足が、子どもと共に日常生活を構築することを通してなされるよう養育・支援している。	b	A17
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりの基本的欲求を把握している。		
	<input type="checkbox"/> 基本的欲求の充足において、子どもと職員との関係性を重視している。		
	<input type="checkbox"/> 高齢児の日課は、秩序ある生活の範囲内で子どもの意思を尊重した柔軟なものとなっている。		
	<input type="checkbox"/> 子どもにとって身近な職員が一定の裁量権を有し、個々の子どもの状況に応じて柔軟に対応できる体制となっている。		
	<input type="checkbox"/> 基本的な信頼関係を構築するために職員と子どもが個別的に触れ合う時間を確保している。		
	<input type="checkbox"/> 夜目覚めたとき大人の存在が感じられるなど安心感に配慮している。		

【コメント】

中学生・高校生は学校の部活動などで帰りも遅く、職員の勤務上個別の関わりを確保することが困難な状態にあるが、できるだけコミュニケーションを図り子どもとの信頼関係を大切に支援している。

③	A18 子どもの力を信じて見守るという姿勢を大切にし、子どもが自ら判断し行動することを保障している。	b	A18
	<input type="checkbox"/> 子どもがやらなければならないことや当然できることについては、子ども自身が行うように見守ったり、働きかけたりしている。		
	<input type="checkbox"/> 職員は必要以上の指示や制止をしていない。		
	<input type="checkbox"/> 子どもを見守りながら状況を的確に把握し、賞賛、励まし、感謝、指示、注意等の声かけを適切に行っている。		
	<input type="checkbox"/> つまずきや失敗の体験を大切にし、主体的に問題を解決していくよう支援し、必要に応じてフォローしている。		
	<input type="checkbox"/> 朝・夕の忙しい時間帯にも、職員が子どもを十分に掌握、援助できるように、職員の配置に配慮している。		

【コメント】

職員は、日常生活の中で失敗時などは子どもの力を信じて見守る姿勢を心掛けている。危険を伴うような場面には安全を優先して指示や制止をするときもある。

④	A19 発達段階に応じた学びや遊びの場を保障している。	b	A19
	<input type="checkbox"/> 施設内での保育が、年齢や発育状況に応じたプログラムの下、実施されている。		
	<input type="checkbox"/> 日常生活の中で、子どもたちの学びや遊びに関するニーズを把握できている。必要性があれば可能な限りニーズに応えている。		
	<input type="checkbox"/> 幼児から高校生まで、年齢段階に応じた図書などの文化財、玩具・遊具が用意、利用されている。		
	<input type="checkbox"/> 学校や地域にある子どもたちの学びや遊びに関する情報を把握し、必要な情報交換ができています。		
	<input type="checkbox"/> 子どもたちのニーズに応えられない場合、子どもがきちんと納得できる説明がされている。		
	<input type="checkbox"/> 幼稚園に就園させている。		
<input type="checkbox"/> 子どもたちの学びや遊びを保障するための、資源(ボランティア等)が十分に活用されている。			

【コメント】

未就園児は年齢に合ったおもちゃなどで遊び、施設で職員と一緒に過ごしている。小・中学生は休日にはバスケットボールやサッカーなど、それぞれ好きなスポーツをして過ごしている。高校進学などで意見の相違がある場合は本人の意向を尊重しながら納得できる対応に努めている。

⑤	A20 秩序ある生活を通して、基本的な生活習慣を確立するとともに、社会常識及び社会規範、様々な生活技術が習得できるよう養育・支援している。	b	A20
	<input type="checkbox"/> 職員の指示や声かけが適切で、施設全体が穏やかな雰囲気の中で秩序ある生活が営まれている。		
	<input type="checkbox"/> 普段から、職員が振る舞いや態度で模範を示している。		
	<input type="checkbox"/> 施設生活・社会生活の規範等守るべきルール、「しなければならないこと」と「してはならないこと」を理解できるよう子どもに説明し、責任ある行動をとるよう支援している。		
	<input type="checkbox"/> 見やすくわかりやすい掲示物など、子どもが社会生活を営む上での必要な知識や技術を日常的に伝え、子どもがそれらを習得できるよう支援している。		
	<input type="checkbox"/> 地域社会への積極的参加を図る等、社会的ルールを習得する機会を設けている。		

【コメント】

日常生活の習慣として中学生以上は洗濯を自分でやり、掃除は日を決めて職員が声がけしながら実施している。行事などで地域の方と触れ合う機会もあり、挨拶はできているが社会的ルールを習得できる機会を設けるなどの取組に期待したい。

(2) 食生活

①	A21 食事は、団らんの場でもあり、おいしく楽しみながら食事ができるよう工夫している。	b	A21
	<input type="checkbox"/> 食事の時間が適切で、食事を通して生活のリズムが形成されている。		
	<input type="checkbox"/> 無理なく楽しみながら食事ができるように、年齢や個人差に応じて食事時間に配慮している。		
	<input type="checkbox"/> 食事場所は明るく楽しい雰囲気で、常に清潔が保たれている。		
	<input type="checkbox"/> 食事の時間が、職員と子ども、そして子ども同士のコミュニケーションの場として機能するよう工夫している。		
	<input type="checkbox"/> 陶器の食器等を使用したり、盛りつけやテーブルの飾りつけの工夫など、食事をおいしく食べられるように工夫している。		
	<input type="checkbox"/> クラブ活動等子どもの事情に応じて、温かいものは温かく、冷たいものは冷たくという食事の適温提供に配慮している。		
	<input type="checkbox"/> 施設外での食事、来客を迎えての食事など、食事を楽しむ多様な機会を設けている。		

【コメント】

子どもへの嗜好調査やリクエストボックスを設置して要望を反映させ、栄養・調理担当職員が作り提供している。中でも手作り餃子は人気があり喜ばれている。高校生は弁当を持参し、ユニット毎の食事はコミュニケーションの場となり家庭的な団らんの場となっている。

②	A22 子どもの嗜好や健康状態に配慮した食事を提供している。	b	A22
	<input type="checkbox"/> 配慮のこもった献立であるとともに子どもの発育に必要な栄養摂取量を満たした食事を提供している。		
	<input type="checkbox"/> 定期的に残食の状況や子どもの嗜好を把握するための取組がなされ、それが献立に反映されている。		
	<input type="checkbox"/> 子どもの年齢、障害や疾病、食物アレルギーなど子どもの心身の状況、また体調など日々の健康状態に応じ、それらに配慮した食事を提供している。		
	<input type="checkbox"/> 少数の子どもを対象として家庭的な環境の下で調理するときであっても、配慮のこもった献立であり栄養面も勘案されるよう、献立について振り返る機会がある。		

【コメント】

毎月、栄養士・調理担当職員を中心に給食会議を実施し、給食に関する情報の共有を図っている。アレルギーへの対応や同じメニューでも小さい子どもへは刺激の少ない味や魚は骨を取り食べやすくするなど盛り付けにも工夫し、子どもたちも喜んで食している。

③	A23 子どもの発達段階に応じて食習慣を身につけることができるよう食育を推進している。	b	A23
	<input type="checkbox"/> 食習慣の習得を、無理なく楽しみながら身につけられるよう工夫している。		
	<input type="checkbox"/> 日々提供される食事について献立の提示等食に関する情報提供等を行っている。		
	<input type="checkbox"/> 食品分類やおやつの摂り方等、栄養についての正しい知識を教えている。		
	<input type="checkbox"/> 偏食の指導を適切に行っている。		
	<input type="checkbox"/> 郷土料理、季節の料理、伝統行事の料理などに触れる機会をもち、食文化を継承できるようにしている。		
	<input type="checkbox"/> 買い物を手伝って材料の選び方を知る機会を設けている。		
	<input type="checkbox"/> 箸、ナイフ・フォーク等食器の使い方や食事のマナーが習得できるよう支援している。		
	<input type="checkbox"/> 基礎的な調理技術を習得できるよう、食事やおやつを作る機会を設けている。		
	<input type="checkbox"/> テーブル拭き、食器洗い、食器消毒、残飯処理など食後の後片づけの習慣が習得できるよう支援している。		

【コメント】

献立表は毎週配布し、誕生日に当たる子どもがいるユニットは好きなケーキを用意し皆でお祝いしている。芋煮会は地域の方と一緒に賑やかに開催している。メニューにはしそ巻き・納豆汁なども出され郷土食に触れる機会もある。

(3) 衣生活

①	A24 衣類が十分に確保され、子どもが衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。	b	A24
	<input type="checkbox"/> 常に衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものを着用している。		
	<input type="checkbox"/> 汚れた時にすぐに着替えることができ、またTPOに合わせた服装ができるよう、十分な衣類が確保されている。		
	<input type="checkbox"/> 靴についても清潔で体にあったものが提供され、汚れや水濡れにも適切に対応している。		
	<input type="checkbox"/> 気候、生活場面、汚れなどに応じた選択、着替えや衣類の整理、保管などの衣習慣を習得させている。		
	<input type="checkbox"/> 洗濯、アイロンかけ、補修等衣服の管理を子どもの見えるところで行うよう配慮している。		
	<input type="checkbox"/> 衣服を通じて子どもが適切に自己表現をできるように支援している。		
	<input type="checkbox"/> 発達段階や好みに合わせて子ども自身が衣服を選択し購入できる機会を設けている。		

【コメント】

衣類の購入は夏・冬の衣替えの時期に中学生以上は職員と共に買い物に出かけている。できるだけ個人の希望を尊重し選択できるよう支援している。整理・保管は小さい子どもは職員が手伝い、高年齢児は自分でやっている。

(4) 住生活

①	A25 居室等施設全体がきれいに整美されている。	b	A25
	<input type="checkbox"/> 庭がきれいに清掃され、樹木や草花の植栽にも配慮が届いている。		
	<input type="checkbox"/> 室内は明るく、花や絵画が飾られるなど、温かみのある環境になっている。		
	<input type="checkbox"/> 食堂やリビングなどの共有スペースは常にきれいにし、家庭的な雰囲気になるよう配慮している。		
	<input type="checkbox"/> トイレ、洗面所等は性別や年齢に応じて使いやすいように配慮している。		
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて、冷暖房設備を整備している。		
	<input type="checkbox"/> 設備や家具什器について、汚れていたり壊れていたりしていない。破損箇所については必要な修繕を迅速に行っている。		
	<input type="checkbox"/> 発達段階や子どもの状況に応じて日常的な清掃や大掃除を行い、居室等の整理整頓、掃除等の習慣が身につくようにしている。		

【コメント】

施設は平成23年に改築し以前に比べて子どもたちが安全に遊べるように前庭・グラウンドも整備されている。掃除も行き届き、施設全体が明るく温かみがあり玄関の上は吹き抜けになっており、2階廊下からも見渡すことができ来訪者を子どもたちが教えてくれることもある。5つのユニットで生活をし、居室の掃除は日を決め職員が声がけしながら行っている。

②	A26 子ども一人ひとりの居場所が確保され、安全、安心を感じる場所となるようにしている。	b	A26
	<input type="checkbox"/> 小規模グループでの養育を行う環境づくりに配慮している。		
	<input type="checkbox"/> リビングや居室は子どもが安心していられる場所になるような配慮がされている。		
	<input type="checkbox"/> 中学生以上は個室が望ましいが、相部屋であっても個人の空間を確保している。		
	<input type="checkbox"/> 年少児の居室は、職員の目の届きやすいところに配置している。		

【コメント】

居室は中学生以上が個室になっており一人ひとりの居場所があり、中には二人部屋もあるが個人の空間が確保されている。リビングには子どもに分かり易い行事予定の案内など掲示し、職員はコミュニケーションをとりながら安心できる雰囲気づくりを心掛けている。

(5) 健康と安全

①	A27 発達段階に応じ、身体の健康（清潔、病気、事故等）について自己管理ができるよう支援している。	b	A27
	<input type="checkbox"/> 常に良好な健康状態を保持できるよう、睡眠、食事摂取、排泄、生理等の状況を職員がきちんと把握している。		
	<input type="checkbox"/> 手洗いやうがいの習慣が身に付くよう支援している。年少児については排泄後の始末や入浴の介助をしている。		
	<input type="checkbox"/> 洗面、整髪、ひげそり、歯磨き、つめ切り、耳そうじ等身だしなみについて、発達に応じて自ら行えるよう支援している。また必要に応じて入浴やシャワーが利用できるなどの配慮がされている。		
	<input type="checkbox"/> 定期的に理美容をしている。		
	<input type="checkbox"/> 寝具の日光消毒や衣類などを清潔に保つなど、衛生管理ができるよう支援している。また夜尿のある子どもについては、子どもの自尊心に配慮しながら支援している。		
	<input type="checkbox"/> 施設内外における危険箇所等を把握し、子どもの発達段階に応じて、危険物の取扱いや危険な物・場所・行為から身を守るための支援を行っている。		
	<input type="checkbox"/> 子どもの交通事故を防止するため、交通ルール等について日頃から子どもに教えている。		

【コメント】

子どもの健康保持や衛生管理は、年2回の健康診断を行い、ユニット毎に体重計を設置しいつでも自己管理ができるようにしている。交通事故防止に向けて子どもたちの通園・通学時に、近くの国道交差点で職員が立哨指導を行っている。

②	A28 医療機関と連携して一人ひとりの子どもに対する心身の健康を管理するとともに、必要がある場合は適切に対応している。	b	A28
	<input type="checkbox"/> 子どもの平常の健康状態や発育・発達状態を把握し、定期的に子どもの健康管理に努めている。		
	<input type="checkbox"/> あらかじめ関係機関の協力が得られるよう体制整備をしている。		
	<input type="checkbox"/> 健康上特別な配慮を要する子どもについては、医療機関と連携して、日頃から注意深く観察し、対応している。		
	<input type="checkbox"/> 受診や服薬が必要な場合、子どもがその必要性を理解できるよう、説明している。服薬管理の必要な子どもについては、医療機関と連携しながら服薬や薬歴のチェックを行っている。		
	<input type="checkbox"/> 職員間で医療や健康に関して学習する機会を設け、知識を深める努力をしている。		

【コメント】

日常生活での会話や表情などから体調変化を読み取り、医療機関と連携を図りながら子どもの健康管理に努めている。服薬に関する学習会を通して知識を深め、子どもに対して職員の統一した取組が望まれる。

(6) 性に関する教育

①	A29 子どもの年齢・発達段階に応じて、他者の性を尊重する心を育てよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。	b	A29
	<input type="checkbox"/> 他者の性を尊重し、年齢相応で健全な他者とのつき合いができるよう配慮している。		
	<input type="checkbox"/> 性をタブー視せず、子どもの疑問や不安に答えている。		
	<input type="checkbox"/> 性についての正しい知識、関心が持てるよう、年齢、発達段階に応じたカリキュラムを用意し、支援している。		
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて外部講師を招く等して、性教育のあり方について学習会などを職員や子どもに対して実施している。		

【コメント】

子どもに対しての性教育は紙芝居等で指導されているが、思春期の子どもたちの感情に配慮し、正しい性知識の習得に向けて年齢や発達段階に合わせて行い、職員の対応が難しい時は外部講師に依頼するなど検討されるよう期待したい。

(7) 自己領域の確保

①	A30 でき得る限り他児との共有の物をなくし、個人所有とすようにしている。	b	A30
	<input type="checkbox"/> 子どもが小さい頃から、自他の境界線がわかるような支援方法を心がけている。		
	<input type="checkbox"/> 身につけるもの、日常的に使用するもの、日用品などは、個人所有としている。		
	<input type="checkbox"/> 個人の所有物が保管できるよう個々にロッカー、タンス等を整備している。		
	<input type="checkbox"/> 紛失防止のためにも、個々の子どもたちに片付け方を教えている。		
	<input type="checkbox"/> 個人所有の物は、でき得る限り子どもの好みを尊重している。		
	<input type="checkbox"/> まだ字が読めない子どもに対しては、イラストマークを使用するなどして、所有物がわかる工夫をしている。記名やマークは、でき得る限り子どもからの許可を得、子どもが恥ずかしがらなくても済むような場所に留める。		

【コメント】

衣類収納はそれぞれの整理タンス等が用意され、衣類の区分け表示をし、出し入れがしやすいようにしている。マグカップ等は、好みに合わせ個人購入で所有している。

②	A31 成長の記録（アルバム等）が整理され、成長の過程を振り返ることができるようにしている。	b	A31
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりに成長の記録（アルバム等）が用意され、空白が生じないように写真等の記録の収集、整理に努めている。		
	<input type="checkbox"/> 成長の過程を必要に応じて職員と一緒に振り返ることができ、子どもの生い立ちの整理につながっている。		
	<input type="checkbox"/> 可能な子どもとは共に、成長の記録（アルバム等）を整理している。		
	<input type="checkbox"/> アルバム等は年齢や状況に応じて個人が保管し、子どもがいつでも見ることができる。		
	<input type="checkbox"/> 子どもが施設を退所する時に、成長記録（アルバム等）が手渡されている。		

【コメント】

成長過程の写真を撮影するため新たに各ユニットにデジタルカメラを配布し、子ども一人ひとりのアルバムづくりに向けて取組んでいる。

(8) 行動上の問題及び問題状況への対応

①	A32 子どもの暴力・不適応行動などの行動上の問題に対して、適切に対応している。	b	A32
	<input type="checkbox"/> 施設が、行動上の問題があった子どもにとっての癒しの場になるよう配慮している。また、周囲の子どもの安全を図る配慮がなされている。		
	<input type="checkbox"/> 施設の日々の生活が持続的に安定したものとなっていることは、子どもの行動上の問題の軽減に寄与している。また子どもの行動上の問題が起きた時も、その都度、問題の影響を施設全体で立て直そうと努力している。		
	<input type="checkbox"/> 不適切な行動を問題とし、人格を否定しないことに配慮をしている。職員の研修等を行い、行動上の問題に対して適切な援助技術を習得できるようにしている。暴力を受けた職員へ無力感等への配慮も行っている。		
	<input type="checkbox"/> くり返し児童相談所、専門医療機関、警察等と協議を重ね、事態改善の方策を見つけ出そうと努力している。		

【コメント】

子どもの不適応行動に対して、職員一人では安心・安全が守られないことがあり、初期の段階で複数職員の対応策を講じられるよう期待したい。

②	A33 施設内の子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないよう施設全体で取り組んでいる。	b	A33
	<input type="checkbox"/> 人権に対する子どもの意識を育むよう支援をしている。日頃から他人に対する配慮の気持ちや接し方を職員が模範となって示し、子どもへ説明をしている。		
	<input type="checkbox"/> 問題の発生予防のために、施設内の構造、職員の配置や勤務形態のあり方についても点検を行っている。		
	<input type="checkbox"/> 生活グループの構成には、子ども同士の関係性、年齢、障害などへの配慮の必要性等に配慮している。		
	<input type="checkbox"/> 課題を持った子ども、入所間もない子どもの場合は特別な配慮が必要となることから、児童相談所と連携して個別援助を行っている。		
	<input type="checkbox"/> 大人(職員)相互の信頼関係が保たれ、子どもがそれを感じ取れるようになっている。子ども間での暴力やいじめが発覚した場合には、施設長が中心になり、全職員が一丸となって適切な対応ができるような体制になっている。		

【コメント】

子ども間のトラブルには、原因を聞き出し子ども同士の判断で仲直りに結び付けているが、事例によっては複数職員の介入で解決を図っている。

③	A34 虐待を受けた子ども等、保護者等からの強引な引取りの可能性がある場合、子どもの安全が確保されるよう努めている。	b	A34
	<input type="checkbox"/> 強引な引取りのための対応について職員に周知徹底している。		
	<input type="checkbox"/> 引取りの可否等について、児童相談所との連絡を適宜行い、判断が不統一にならないようにしている。		
	<input type="checkbox"/> 緊急時には協力を依頼できるよう、警察との連携を図っている。		
	<input type="checkbox"/> 強引な引取りが考えられる場合、他の子どもへの安全についても配慮がされている。		

【コメント】

保護者等の強引な引取りには、子どもの安全確保に努め、たうえで児童相談所との連携で、間違っただ判断にならないよう対応している。緊急時に警察からの協力や連携ができるよう職員への対応マニュアルの周知が望まれる。

(9) 心理的ケア

①	A35 心理的ケアが必要な子どもに対して心理的な支援を行っている。	b	A35
	<input type="checkbox"/> 心理的な支援を必要とする子どもについては、自立支援計画に基づき心理支援プログラムが策定されている。		
	<input type="checkbox"/> 施設における職員間の連携が強化されるなど、心理的支援が施設全体の中で有効に組み込まれている。		
	<input type="checkbox"/> 心理的なケアが必要な子どもへの対応に関する職員研修やスーパービジョンが行われている。		
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて心理の専門家から直接的支援を受ける体制が整っている。		
	<input type="checkbox"/> 心理的支援を行うことができる有資格者を配置し、心理療法室を設置している。		
	<input type="checkbox"/> 児童相談所と連携し、対象となる子どもの保護者等へ定期的な助言・援助を行っている。		

【コメント】

心理療法担当職員が外部の臨床心理士からスーパービジョンを受け、児童相談所からの引継書や施設で作成した自立支援計画にもとづき、ケアが必要な子ども（被虐待児童・発達障害傾向児童）に対して「心のケア」を実践した結果、情緒の安定につなげている。

(10) 学習・進学支援、進路支援等

①	A36 学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援を行っている。	b	A36
	<input type="checkbox"/> 静かに落ち着いて勉強できるように個別スペースや学習室を用意するなど、学習のための環境づくりの配慮をし、学習習慣が身につくよう援助している。		
	<input type="checkbox"/> 学校教師と十分な連携をとり、常に子ども個々の学力を把握し、学力に応じた個別的な学習支援を行っている。一人ひとりの必要に応じて、学習ボランティアや家庭教師、地域の学習塾等を活用する機会を提供している。		
	<input type="checkbox"/> 学力が低い子どもについては、基礎学力の回復に努める支援をしている。		
	<input type="checkbox"/> 忘れ物や宿題の未提出について把握し、子どもに応じた支援をしている。		
	<input type="checkbox"/> 障害を持つ子どものために、通級による指導や特別支援学級、特別支援学校等への通学を支援している。		

【コメント】

市内の英語塾を開いている方の好意で引き受けてもらい、希望する子どもが学ぶことができるようになり、子どもたちの学習意欲が増し支援効果が出ている。

②	A37 「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。	b	A37
	<input type="checkbox"/> 早い時期から進路について自己決定ができるよう進路選択に必要な資料を収集し、子どもに判断材料を提供し、子どもと十分に話し合っている。		
	<input type="checkbox"/> 進路選択に当たって、親、学校、児童相談所の意見を十分聞き、自立支援計画に載せ、各機関と連携し支援をしている。		
	<input type="checkbox"/> 奨学金など進路決定のための経済的な援助の仕組みについての情報等も提供している。		

	<input type="checkbox"/> 進路決定後のフォローアップや失敗した場合に対応する体制ができており、対応している。	
	<input type="checkbox"/> 中卒児・高校中退児に対して、就労させながら施設入所を継続することで十分な社会経験を積めるよう支援している。	
	<input type="checkbox"/> 高校卒業後も進学を希望する子どものために、資金面、生活面、精神的面など、進学の実現に向けて努力をしている。	

【コメント】

学校と連携をとり学力向上と進路指導に力を注ぎ、各高校に進学している。また高校を卒業する子どもには、進路相談や職場体験実習、自炊調理実習等を実施し、自立に向けた取組を行っている。

③	A38 職場実習や職場体験、アルバイト等の機会を通して、社会経験の拡大に取り組んでいる。	b	A38
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、社会の仕組みやルールなど、自分の行為に対する責任について話あっている。		
	<input type="checkbox"/> 実習を通して、金銭管理や生活スキル、メンタル面の支援など、子どもの自立支援に取り組んでいる。		
	<input type="checkbox"/> 実習先や体験先の開拓を積極的に行っている。		
	<input type="checkbox"/> 職場実習の効果を高めるため、協力事業主等と連携している。		
	<input type="checkbox"/> アルバイトや、各種の資格取得を積極的に奨励している。		

【コメント】

学校によってはアルバイト禁止もあり進めていないが、職場体験実習に参加してもらい、社会環境や職場環境の仕組み、人との関わり等の理解が深められるよう取組んでいる。

(11) 施設と家族との信頼関係づくり			
①	A39 施設は家族との信頼関係づくりに取り組み、家族からの相談に応じる体制を確立している。	b	A39
	<input type="checkbox"/> 施設の相談窓口および支援方針について家族に説明し、家族と施設、児童相談所が子どもの成長をともに考えることを伝え、家族と信頼関係を構築できるよう図っている。		
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員の役割を明確にし、施設全体で家族関係調整、相談に取り組んでいる。		
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅などを取り入れ子どもと家族の継続的な関係づくりに積極的に取り組んでいる。		
	<input type="checkbox"/> 外出、一時帰宅後の子どもの様子を注意深く観察し、不適切なかがわりの発見に努め、さらに保護者等による「不当に妨げる行為」に対して適切な対応を行っている。		
	<input type="checkbox"/> 子どもに関係する学校、地域、施設等の行事予定や情報を家族に随時知らせ、必要に応じて保護者等にも行事への参加や協力を得ている。		

【コメント】

保護者等には入所時から支援方針等を伝え、児童相談所との連携を図りながら保護者等との相談も行い共に子どもの成長を考えた支援に取組、保護者等との信頼関係を築いている。

(12) 親子関係の再構築支援

①	A40 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。	b	A40
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員を中心に、ケースの見立て、現実的な取組を可能とする改善ポイントの絞り込みを行うなど、再構築のための支援方針が明確にされ施設全体で共有されている。		
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅、あるいは家庭訪問、施設における親子生活訓練室の活用や家族療法事業の実施などを通して、家族との関係の継続、修復、養育力の向上などに取り組んでいる。		
	<input type="checkbox"/> 児童相談所等の関係機関と密接に協議し連携を図って家族支援の取組を行っている。		

【コメント】

施設内に親子生活訓練室を設置し、家族との交流や宿泊も兼ねた生活ができるようになっているが、これまでに活用は見られない。

(13) スーパービジョン体制

①	A41 スーパービジョンの体制を確立し、職員の専門性や施設の組織力の向上に取り組んでいる。	b	A41
	<input type="checkbox"/> スーパーバイザーを配置し、いつでも相談できる体制を確立している。		
	<input type="checkbox"/> 職員に対するスーパービジョンを定例的に行い、職員がひとりで問題を抱え込まないように、スーパーバイザーなどを通じて、組織としての働きかけをしている。		
	<input type="checkbox"/> スーパーバイザー以外にも職員相互が評価し、助言し合うことを通じて、職員一人ひとりが支援技術を向上させ、施設全体の支援の質を向上させるような取組をしている。		
	<input type="checkbox"/> スーパーバイザーは、職員からの信頼が得られるよう、研修に参加するなど質の向上に努めている。		
	<input type="checkbox"/> 国が定める基幹的職員を設置している。		

【コメント】

外部講師による全体スーパービジョンを昨年度2回実施し、また外部の臨床心理士から心理療法担当職員が2ヶ月に1回のスーパービジョンを受けている。スーパーバイザーとして基幹的職員を配置しているが、職員一人ひとりに対するスーパービジョンは行われていないため、今後チーム支援の体制として機能されるよう期待したい。